

那珂川だより

那珂川緊急治水対策プロジェクトに盛り込まれた河川対策の進捗やソフト対策の検討状況をお知らせします

令和4年1月
第19号



編集・発行
国土交通省 常陸河川国道事務所

新年にあたって

- 令和4年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。日頃より、那珂川緊急治水対策プロジェクトの推進にあたり、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
- 現在は、地元調整や用地取得ができた箇所の堤防整備、河道掘削等の工事を進めているとともに、これから整備する箇所の設計や用地取得のための調査を進めています。
- これらの工事等の推進には、関係機関のみならず、地域の皆様、建設業者の皆様の協力が不可欠となりますので、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

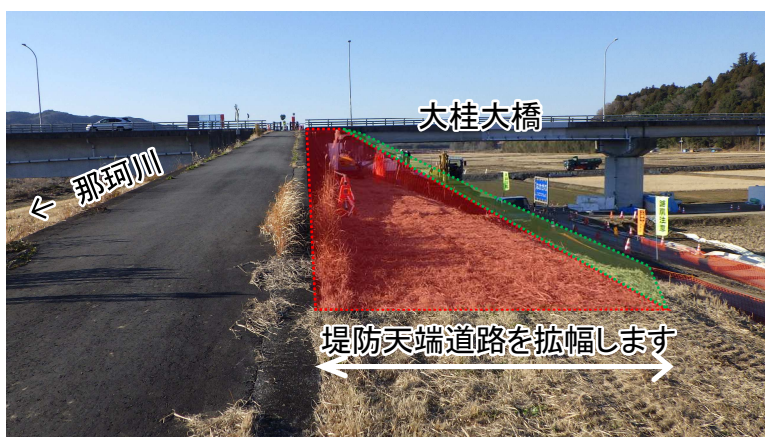


大洗海岸の初日の出

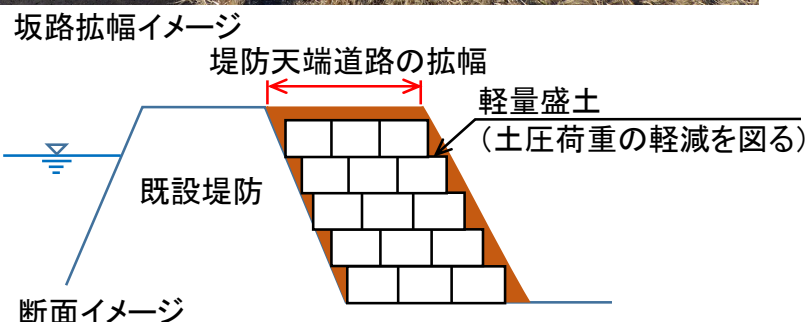


工事の進捗状況 ～大場遊水地の仮設工事～

- 大場遊水地では、これから令和6年度までの間に、囲ぎょう堤や周囲堤など堤防整備としての盛土のために、大量の土砂をダンプトラックで運搬する必要があります。このため、大桂大橋から直接大場遊水地に降りられるよう、仮設用道路として堤防天端道路の拡幅を「軽量盛土工法」により実施しています。
- 軽量盛土工法は、一般的な盛土材料である土砂の3/4～1/100程度の重量しかない軽量の盛土材（発泡スチロールや気泡混合軽量土、発泡ウレタンなど）を用いる工法です。軽量の盛土材を用いる事により、土圧の軽減・底面への荷重の軽減を図り周辺への影響を抑えています。なお、今回の工事では 発泡スチロールを採用しています。



施工状況
(発泡スチロールを積んでいます)

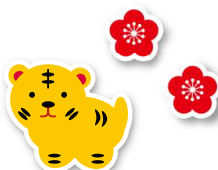


【番外編】海門橋の歴史を調べてみました！（第4回）

- 海門橋の歴史を4編に分けて紹介しています。最終回となる今回は5代目海門橋についてです。「虹の架け橋」と絶賛された4代目海門橋は、大洪水により開通から約8年で落橋してしまいます。
- 落橋後、渡り船の運航や上流にかかる湊大橋が活躍しましたが、海門橋の消失は、交通網の弱体化だけでなく地域の象徴を失う等地域の大きな課題となりました。
- その後、海門橋再建の動きを受け新橋建設の計画に着手、大型漁船の航行を考慮し桁下高と航路幅を確保するため、その当時の最新土木技術を駆使して、昭和34年9月に橋長670mの鋼製ラガー橋である5代目海門橋が開通しました。
- 現在も4代目海門橋の名残がありますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。



◀ 5代目海門橋
(昭和34年～現在)



◀ 開通後の通り初め

寄稿：
茨城県土木部河川課
写真：
市広報広聴課（ひたちなか市）提供

境界立会を行いました

- 令和3年12月6～8日に、水戸市根本地区・渡里地区で河道掘削を行う上で必要となる用地境界の立ち会いを行い、多くの地権者などの方にご参加・ご協力をいただきました。
- 今後、詳細な用地及び物件調査を進めて参りますので、ご協力をお願いいたします。



境界立会の様子
(水戸市根本地区)

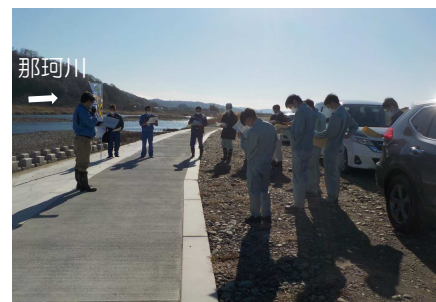


減災対策協議会幹事会の現地見学会を実施しました

- 令和3年12月1日と3日に、久慈川・那珂川流域における減災対策協議会幹事会の現地見学会を実施し、計18機関の担当者が参加しました。
- 令和元年東日本台風により被害を受けた箇所への復旧状況やソフト対策の取組状況など自治体等関係機関の担当者との情報共有を図り、水防災意識社会の再構築に向けた課題と取組に関して、情報の共有と意識の向上を図りました。



那珂川右岸11.0k付近から対岸のひたちなか市枝川地先を確認



那珂川右岸82.5k付近那須郡那珂川町小川地先を確認



国土交通省 関東地方整備局
常陸河川国道事務所 調査第一課
TEL: 029-240-4069



〒310-0851
茨城県水戸市千波町1962-2

プロジェクトに関するお問い合わせはこちらです

常陸河川国道事務所

検索

